

# 南アと三峰川 未来探る

伊那 市民団体がフォーラム

地域活性化に取り組み県内の市民グループ3団体でつくるコミュニティネットワーク信州(伊藤武廣会長)は28日、「南アルプスと三峰川の未来フォーラム」を伊那市長谷の仙流荘で開いた。会員ら約30人が出席。南アの成り立ちや三峰川の歴史に理解を深め、将来について考えた。

同団体は上伊那地方の住民らでつくる明るい県政を進める会(桜井伝一郎会長)や長野市のコミュニティネットワーク

ク長野(小出和彦会長)など3団体が8月に設立。フォーラムは初めての事業として開いた。

パネル討論で、北沢秋司・信大名誉教授は地質学の観点から南アの成り立ちや構造を説明。伊那市などが目指す南アの世界自然遺産登録について、地形の特徴や発達史は基盤になるとした上で、「そこ

に住む人々の暮らしや未来への展望が大切になる」との見方を示した。

伊那市長谷総合支所の中山

南アや三峰川への理解を深めたフォーラム

## 南アルプスと三峰川の未来



の効果に触れる一方、一部住民が移住を余儀なくされるなど「翻弄されてきた」村の歴史を当時の写真などを使って紹介。「国家的事業を進める際、為政者は地域の将来のありようをきちんと見据えないと、不幸な住民を生んでしまう」と警鐘を鳴らした。

同団体の副会長を務めるコミュニティネットワーク長野の小出会長は「県下全域を対象に地域の発展や資源の活用について勉強を重ね、住民の立場から行政に提言するなど、積極的な取り組みをしていきたい」と話していた。

昌計支所長は長谷地域の美和ダム建設や戸草ダム建設計画について、災害防止や三峰川下流域への水の安定供給など

(高島剛志)